

前沖縄防衛局長の沖縄県民を侮辱する暴言に対する
抗議と防衛大臣の辞職を求める意見書

去る11月28日に田中聡前沖縄防衛局長は、米軍普天間飛行場の移設先の環境影響評価書の提出時期を問われ「これから犯す前に犯しますよと言いますか」などと、性的暴行に例えた全く看過できない発言がマスコミ報道で明らかになった。

沖縄県における防衛省のトップである前沖縄防衛局長のこのような人権感覚を欠いた発言は、県民の長年の耐え難い苦痛を無視し、県民と女性を侮辱し愚弄するもので言語道断である。

沖縄県は、国土の面積でわずか0.6%にすぎないのに、いまもなお74%の在日米軍基地が集中させられている。そして県民は、米軍基地があるが故に、米兵による少女暴行事件や県民の尊い生命が奪われた事件・事故など筆舌に尽くしがたい苦しみと痛み、人権蹂躪が戦後66年も強いられている。

前沖縄防衛局長は更迭されたとはいえ、この発言には、基地の縮小を願う県民の総意に反し、沖縄に基地を今後も押し付ける政府・官僚の強引な本質が見え、沖縄蔑視と差別意識を示しており、断じて許されるものではない。

また、一川保夫防衛大臣は、1995年の少女暴行事件について、「正確な中身は詳細には知らない。」と参議院東日本大震災復興特別委員会で答弁しており、田中聡前沖縄防衛局長を更迭した直後の大臣の発言としては、緊張感のなさや、沖縄の基地問題に対する防衛省や国の姿勢が問われるものである。

よって読谷村議会は、田中聡前沖縄防衛局長の発言に対し、激しい怒りを込めて抗議するとともに、任命責任者である防衛大臣の辞職を求め、環境影響評価書の提出を断念することを強く要求する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成23年12月6日
沖縄県読谷村議会

あて先 内閣総理大臣、防衛大臣、内閣官房長官